

- ・ 困窮者の自立・再チャレンジに向けた相談事業や居場所の提供などについては、第一期西成特区構想の段階から第二期に至るまで、成果を上げている。
- ・ あいりん地域では取組の効果により環境は大きく変化した。が、区全体で見るとほかの地域でも貧困に起因する課題がみられることから、あいりん地域に限らず、区全体に取組を展開する必要がある。

2. 福祉

- ・ 単身高齢生活保護受給者の社会的つながりづくり事業（ひと花事業）
- ・ 西成版サービスハブ構築・運営事業
- ・ 公共空間利用モデル構築事業



あいりん地域には様々な分野の支援の手が存在し、関連する民間施設や公的機関が集積している。

これまで、生活保護法改正による住宅扶助の見直しなどにより、狭隘な住環境の改善やそこに暮らす単身高齢生活保護受給者等への居場所の提供などにより課題が解消されてきた。

しかしながら、とりわけ若年の困窮層が抱える課題と従来からの日雇労働者を中心とした支援内容とのミスマッチなどにより、十分なケアがなされていない状況にあった。

そのため、困窮層と支援者、または支援者間を有機的に結び付け、真に困難を抱える人のニーズに即した支援が行われている状態とすることをめざしている。

- かつて、あいりん地域には職を求める労働者が多く流れ込み、労働者を支えることで地域経済が回っていた。
- 現在、流入者の層が大きく変化し、かつての地域経済は成立せず、停滞している。



セーフティーネットイメージ 日雇労働市場全盛期（昭和40年代～平成初頭）

セーフティーネットイメージ 日雇労働市場衰退期（平成初頭～現在）

若年の就労困難層が西成区（あいりん地域）に流入することで生じる課題

○若年就労困難層が就労や地域社会への参加に至らず、単に生活保護制度等に滞留している。

- 課題①：本人の能力活用が果たされないまま、社会への負荷のみが大きくなる。
- 課題②：福祉支援に対する地域住民等の理解が得られない。
- 課題③：地域の支援団体等の職員と区的生活保護担当者との関係が悪化する。
- 課題④：「生活保護に依存するまち」として地域のイメージが悪化する。

単身高齢生活保護受給者の社会的つながりづくり事業（ひと花事業）

あいりん地域を中心に社会的に孤立している単身高齢の生活保護受給者が、地域や他者とのつながりを持つことで、社会からの孤立を防ぐとともに日常生活や社会生活の自立に繋げ、健康で安定した生活を送れるようになることをめざす。また、ゆくゆくは、既存の地域コミュニティにも参加できることをめざし、居場所や各種プログラムを提供する。

目標：単身高齢の生活保護受給者が社会から孤立することなく、地域や他者とのつながりを持ち、地域の人材として活躍できるような状態をめざす。

評価：本事業の実績としては、利用登録者 150 名程度であり、年間約 2,500 回のプログラム実施、のべ 10,000 人が参加している。

地域ボランティア活動の継続的な実施により、地域住民などから高い評価を得ている。また、マスコミなどにも取り上げられ、西成区のイメージアップにも寄与している。

令和 3 年度末の利用者アンケートでは、全員が「社会的なつながりができた」と感じており、97.8%が「生活が改善した」（悪化した 2.2%）と回答しており、成果を上げている。

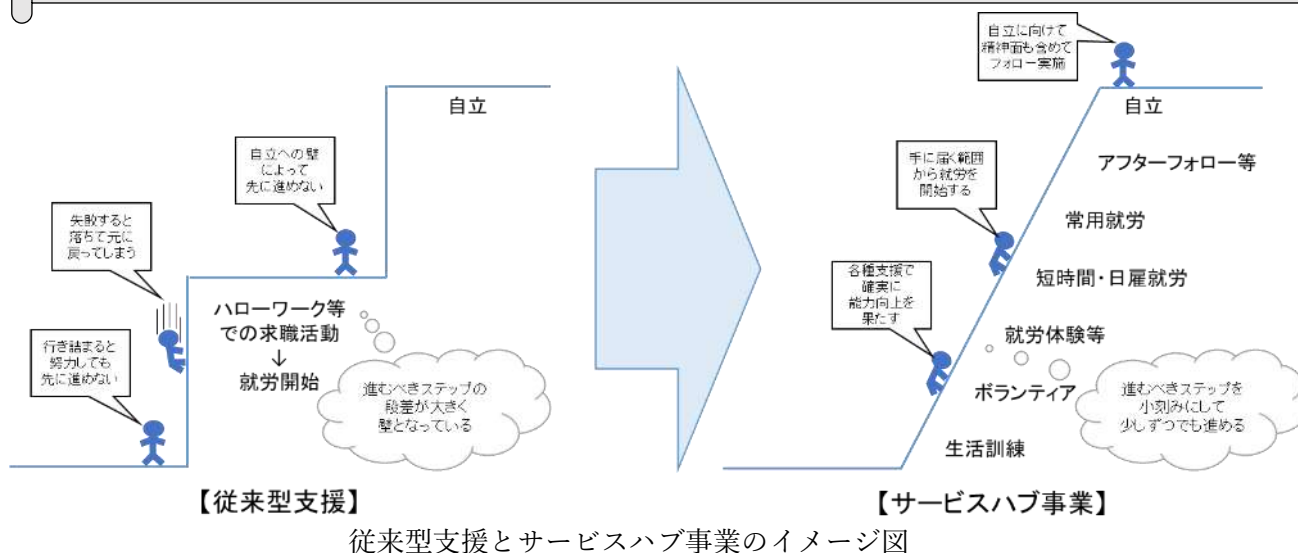
西成版サービスハブ構築・運営事業

生活困窮者等が気軽に立ち寄ることができる居場所の提供、地域の福祉サービス提供者等との連携により、新たな居場所の開拓を通して支援へとつなげる。

また、就労、福祉などの分野を超えて、困難な事例の解決を図ることができる支援員を配置し、生活訓練から就労支援まで、個々人に応じた支援とのマッチングなどにより課題を解決し、各々に応じた自立をめざしていく。

さらに、日雇労働市場や地域の膨大な福祉需要等の地域資源を（中間）就労やボランティア先等として活用し、支援の出口そのものを広げることで、社会参加を促していく。

- 従来型支援では、壁に行き当たりなかなか次のステップへ進めない人に対して、サービスハブ事業では、その人に見合った自立をめざし、個々人に見合った伴走型の支援を実施している。



目標：あいりん地域の資源や需要と就労困難な若年層とのマッチングを図ることにより、生活訓練から就労まで一貫通貫した支援を行い、課題の解決を図る。

日雇労働市場や地域の膨大な福祉需要等の資源を（中間）就労やボランティア先等として活用し、支援の出口を広げていく。

評価：令和元年から令和 3 年の 3 年で、208 件の支援を行い、178 件で効果が認められた。

個別の支援を通じて、地域資源を活かした支援のノウハウが蓄積されつつある。

利用者のボランティア活動などを通じて、地域住民や団体等とのつながりが構築されつつある。

- 令和元年から令和3年の3年で、208件の支援を行い、178件で効果が認められた
- 就労に至るほか、障がい者施策等へつながるなど、そのひとに応じた出口につながっている。

<サービスハブ事業の年度別支援件数及び支援結果>

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	合計
支援件数	59件	66件	83件	208件
支援による 効果があった件数	51件 (86.4%)	61件 (92.4%)	66件 (79.5%)	178件 (85.6%)
就労に至った件数	15件 (25.4%)	20件 (30.3%)	14件 (16.8%)	49件 (23.6%)
通常就労を開始した件数	2件 (3.4%)	4件 (6.1%)	10件 (12.0%)	16件 (7.7%)
支援を受けながら短時間 就労を開始した件数	13件 (22.0%)	16件 (24.2%)	4件 (4.8%)	33件 (15.9%)
本事業でつないだ障がい者 施策等を併用した件数	36件 (61.0%)	41件 (62.1%)	52件 (62.7%)	129件 (62.0%)

公共空間利用モデル構築事業（萩小の森の暫定整備）（うち、福祉に関すること）

憩いの場となるような公共空間の少ないあいりん地域で広場空間を供用し、旧あいりん総合センターを日中の居場所としていた層の居場所の一つとするとともに、多様な利用者が使用することで限られた場所をシェアする意識を育み、あいりん地域の環境改善につなげていく。

目標：暫定整備された広場を多様な利用者層が一定のルールのもとでシェアできる環境を構築する。

評価：広場の管理運営にあたり、地域住民や子ども関連の団体、労働・支援団体など様々な属性の方が参加するワーキンググループを設置し、ワーキンググループでの議論を踏まえ、運用を行っている。

- ・ 第一期西成特区構想として検討・実施してきた取組に加えて、第二期からは、若年の困難層が抱える課題に対応するため、個々人に見合った伴走型の支援などを実施している。
- ・ 区の生活保護担当者が、就労困難層に対する重点的な支援の必要性・実効性を例に即して理解しつつあり、支援団体等の職員が、就労支援の重要性や困難などを理解しつつある。
- ・ 先進的な取組が、福祉関係者を中心に全国に広まるとともに、マスコミなどでも取り上げられつつある。
- ・ 一方で、サービスハブ事業の実施により、一般就労に限らず、（中間）就労やボランティア、短時間就労といったその人にあった中間的就労や短時間労働等の就労先等については質・量ともに限られているという課題が見えてきた。

3. 医療

- ・あいりん地域を中心とした結核対策事業
- ・薬物依存症者等サポート事業



大阪府は、全国でもまれにみる高い結核罹患率となっており、中でもあいりん地域は群を抜いて高い状況である。

これは、公衆衛生上課題であるのはもちろんのこと、西成区に対する負のイメージともなりかねず、西成特区構想のめざす「若者や子育て世帯の流入促進」に対して、大きな影響を及ぼすことが懸念されることから、これまで重点的に取組を行い、目に見える成果を上げてきた。

その他、大阪市・大阪府・大阪府警の三者で取組を進めている「あいりん地域を中心とする環境整備の取組み（5 か年計画）」として、薬物事犯の重点的な取締りの実施にあわせて、薬物依存症者に対する地域の理解促進や、薬物依存症者が再び薬物事犯に及ばないような医療相談体制の整備、あいりん地域の医療の核となる大阪社会医療センター附属病院の移転・建替え整備など、地域の抱える医療に関する様々な課題解決に向けても、着実に取り組んできたところである。

あいりん地域を中心とした結核対策事業

西成区、特にあいりん地域は、結核罹患率が全国的に見ても高いことから、結核患者の早期発見・早期治療につなげるため、西成区役所及び保健福祉センター分館での毎日健診や、あいりん地域を中心とした各種結核対策事業を実施しているほか、結核患者の療養支援をあわせて実施している。

目標：高まん延状態（罹患率 100 以上）からの脱却

令和 4 年に西成区の罹患率 100 以下（第二期西成特区構想の目標）

評価：目標の罹患率 100 以下という目標については、令和元年で前倒し達成。ただし、依然として市平均、全国平均と比較して高く、引き続き対策が必要である。

< 令和 3 年（2021 年） 新規登録結核患者数／罹患率 >

全国：11,519 人 / 9.2 大阪市：512 人 / 18.6

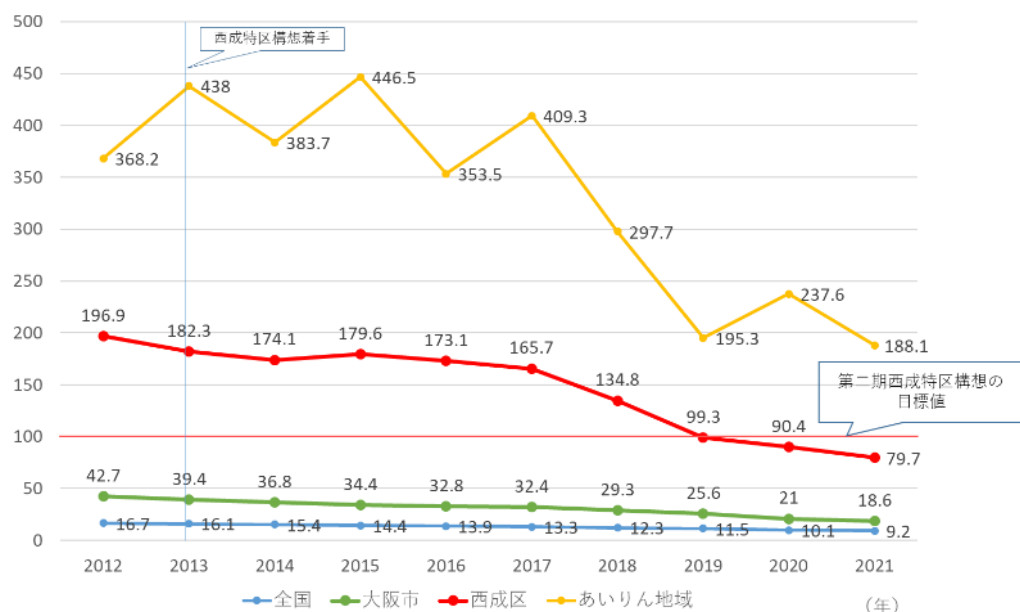
西成区：84 人 / 79.7 うち、あいりん地域：38 人 / 188.1（推計）

結核罹患率：1 年間に発病した患者数を人口 10 万あたりで表したもの

罹患率は毎年 10 月 1 日人口を基に算出するが、あいりん地域については直近最新の国勢調査の人口を使用しているため推計と記載

- 結核罹患率は年々減少する傾向にある。
- 目標は 3 年前倒しで達成したものの、依然高い値であり、他区と比較しても突出して高い。

（人口10万人あたりの新規登録結核患者の割合）



結核罹患率の経年変化